

令和元年6月26日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K17399

研究課題名（和文）中華民国時期における「童子軍（ボーイスカウト）」運動の成立と展開

研究課題名（英文）The Establishment and Development of the Boy Scout movement during the period of the Republic of China

研究代表者

孫 佳茹 (SUN, JIARU)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・その他（招聘研究員）

研究者番号：40757316

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：中華民国期における「童子軍」（ボーイスカウト）運動について、その成立と展開のプロセスを国際交流の視点から考察した。北京政府期においては、童子軍運動は上海共同租界を中心に、外国人・中国人のスカウト関係者によって始められた。南京国民政府期においては、童子軍が国民党政権によって少年兵組織として利用されながらも、組織理念や教科書において、活動の国際性を一定の範囲で確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は 中国の近代教育史、とりわけ児童を対象にした社会教育史の開拓、アジアにおける児童組織・団体史の比較研究を構築する基礎研究、としての学術的意義がある。中華民国期代表的な児童組織の成立・展開の経緯を明らかにすることにより、今日も継続されている学校外青少年団体の活動に対する示唆に繋がると考えられる。

研究成果の概要（英文）：We discussed the Boy Scout movement during the period of the Republic of China, focusing on the process of their establishment and development from the perspective of international exchange. During the period of the Peking government, the Boy Scout movement was centered at the Shanghai International Settlement, and initiated by foreign and Chinese scout officials. During the period of the Nanking government, while the Boy Scouts were used by the Kuomintang regime as a juvenile troop organization, we could also confirm from their organizational philosophy and textbooks, that the international nature of their activities was kept to a certain extent.

研究分野：教育史

キーワード：童子軍 ボーイスカウト 少年団 社会教育 中華民国 教育史 児童史 青少年団体

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 設立からすでに百年以上もの歳月が経っているにもかかわらず、ボーイスカウトは世界最大の青少年組織として依然強い影響力を持っている。一方、ボーイスカウト組織を持たない国の一つである中国では、今、ボーイスカウト研究のブームが起きている。その背景は主に二つある。一つは、中国最大の児童組織である少年先鋒隊(ピオネール)の活動内容の参考にするため、欧米諸国のスカウト活動に関する研究が進められている。もう一つは、中華民国史を再評価しようとする研究動向の中、国民党政権下の児童組織でありながらも、抗日戦争に協力的な存在として、童子軍が改めて注目を浴びるようになった。

中国では、ボーイスカウト(中国語では「童子軍」と呼ばれる)活動は1910年代より始まり、1949年まで40年近く存続していた。欧米諸国と異なり、中国の場合、童子軍は学校教育と密接な関わりを持ちながら展開された経緯があるため、中国教育史を検討する上では看過できない存在である。そのため、童子軍を単なる少年兵組織として捉えるのではなく、児童社会教育団体としての側面に光をあてる価値がある。そのことによって、子どもを対象とした社会教育史研究を切り開くことが可能になる。

(2) 民国期の童子軍に関する先行研究は、主に二つの問題点がある。一つは、国際的な視野から中国童子軍運動を検討してこなかったことである。1926年以後、国民党政権が既存の童子軍団体に対し、「党化教育」(のちの「三民主義教育」)を注入するよう組織改組を始めた。それと同時に、国民党の立場から中国童子軍史が再構築されるようになった。その結果、1910年代より世界的に展開されたスカウト運動と関わり合いながら、中国の童子軍運動が成立・展開された事実は看過され、一国史的な童子軍史になってしまっている。二つ目は、部分的な歴史研究に終始している点である。中国側の最新研究として、孫玉芹『民国時期的童子軍研究』(人民出版社、2013年)がある。中国童子軍史に関する初の学術著書である。この本の中で、著者は童子軍運動の中国における成立過程について初歩的なアプローチを試みたが、内外資料が不足しているため、全面的な解明に至らなかった。

そこで、本研究では日・中・英三カ国語の一次資料を駆使し、童子軍の中国における成立と展開のプロセスと特質の解明を試みた。そして、それを通じて、児童を対象とした中国社会教育史の一側面に迫ろうとした。

2. 研究の目的

本研究は中華民国期(1912-1949年)中国における「童子軍」(ボーイスカウト運動)の成立と展開の過程を、国際交流の視点から考察することを目的とする。具体的に、以下の2点からアプローチした。

(1) 中国の童子軍運動がイギリス・アメリカ・日本など、他国のスカウト運動とどのような関わりを持ちながら、成立・展開していたのかを明らかにする。

(2) 世界的に展開されたボーイスカウト運動が中国に導入された際、スカウティングはしばしば「童子軍教育」として扱われた。童子軍が中国の近代教育との関わりを分析することによって、中国近代教育史における童子軍運動の位置づけを再検討する。

3. 研究の方法

本研究は文献研究の手法を用いる。中国大陸のほか、香港・台湾・日本・アメリカなどに収蔵された中国童子軍に関する史料をまず収集し、その上、内容を読解・分析した。収集した史料の種類には、英字新聞・雑誌、学校機関誌、政府の公文書などがある。

主に以下の図書館・アーカイブズにて史料収集を行った。

中国大陸：国家図書館・上海図書館・上海市档案馆

台湾：国家図書館・国立編訳館・国立台湾師範大学図書館・中国国民党党史館

香港：香港公共図書館

日本：国会図書館・東洋文庫・早稲田大学図書館・日本ボーイスカウト連盟資料室

アメリカ：ミネソタ大学Y M C Aアーカイブズ

また、研究代表者が本研究を始める前にイギリス(ロンドン大学教育研究所図書館、大英図書館、イギリス国立公文書館)にて初歩的に収集した関連資料も利用した。

4. 研究成果

本研究は1910年代から1949年まで中国本土における「童子軍」(ボーイスカウト)運動の成立と展開の過程を考察した。以下、北京政府期と北伐期・南京国民政府期に分け、時期ごとに童子軍運動の特徴を述べる。

(1) 北京政府期における童子軍運動の成立と展開のプロセスについて、上海共同租界(以下、上海租界)及びその近隣の江蘇省に焦点を当てて、分析を進めた。

上海租界における成立と展開に関して、以下のことが判明した。北京政府期において、童子軍運動が最も盛んな地域であった上海租界において、運動の成立と展開には、イギリス人をはじめとする外国人スカウト関係者の存在が欠かせなかった。一方、童子軍運動が展開していくうちに、南洋公学をはじめ租界にある中国人のための近代教育機関では、中国人教育関係者の賛同・協力も顕著に見られるようになった。つまり、上海租界における童子軍運動の成立と展開には外国人

と中国人、両方のスカウト関係者の関わりが欠かせなかった。1915年に開催された第二回極東選手権競技大会をきっかけに、上海租界童子軍界が全国における童子軍運動の推進にリード的な役割を果たすようになった。中でも上海YMCAがその有力な担い手となった（雑誌論文）。

上海租界から近隣の江蘇省へ童子軍運動が広がる中、上海YMCAのほか、中国の民間教育団体の影響力も大きく見られるようになった。江蘇省では江蘇省教育会の応援を受け、省レベルの童子軍運営組織が結成された。また、学校を拠点に童子軍の結成・活動が盛んに行われるようになった。江蘇省教育会は、全国教育会連合会や、中華教育改進社のネットワークを通じ、全国規模で童子軍運動を展開させようとした。中でも、1923年に開かれた全国教育会連合会の年次大会において、童子軍の教育的意義が公式に認められたことが運動の推進に大きな意味を持った。この大会では、新教育運動の中国における展開と相まって、「童子軍教育」を新教育推進のための有力な手段として認め、童子軍の全国展開に拍車をかけた（雑誌論文）。

中国の教育関係者や民間教育団体が童子軍を重要視した理由について、上海・江蘇童子軍の活動内容から窺うことができる。研究代表者は北京政府期において上海・江蘇童子軍の参加した社会活動を分析したところ、公共衛生の宣伝・運動会の開催サポート・国の祝日を祝う活動・地域のイベントの秩序維持など、近代性・公共性の含まれるものが多く見られた。つまり、童子軍活動を通じた健全なる青少年育成を、中国の教育関係者が期待していたのではないかと推測できよう（学会発表）。

そして、1920年代に入り、上海・江蘇童子軍が第二回国際ジャンボリー（1924年、デンマークにて開催）へ参加したり、少年団日本連盟（1926年）を訪問したりして、国際交流活動を頻繁に行うようになった。これらの国際交流がいずれも自国の童子軍運動にとって良い刺激となった。

（2）北伐期から南京国民政府期にかけて、童子軍運動の展開について国際性と国家性の関係性に焦点を当てて考察した。具体的に、それまで国際的な性格をもちながら中国へ導入され、国際交流の中で成長した童子軍が、戦時に向けて国家という枠組みの前でどのように変遷を遂げていったのか、童子軍の訓練課程および教科書を通じて分析した。

1926以後、国民党政権は党義を加える形で童子軍の訓練課程を改訂した。それによって、童子軍運動の目的がより民族性（国家性）を主張するようになった。一方で、童子軍の指導方針となる政策作りには、北京政府期の童子軍関係者の参加により、政治色彩の濃い内容も軍事訓練に該当する項目も減らされている。更には中国童子軍総章に「児童中心主義」を意識させるような文言さえ含まれるようになった（雑誌論文）。つまり、南京国民政府期においては、三民主義教育が進められたが、北京政府期の童子軍関係者の関与により、逆説的ではあるが、童子軍運動の国際性がある程度守られることになったのである。

日中戦争時における童子軍活動の国際性の在り方について、教科書分析を通じて検討したところ、1934年以後学校教育で童子軍が正課において必修化されるに至った。一方、北京政府期童子軍運動の代表的な人物の一人である範曉六によって編纂された数種類のテキストを分析した結果、全面戦争の局面を迎える際のみ、テキストには国家意識を強めるような時局の内容を取り入れられるようになっていった。このことについて、範は後日の回想の中で、戦時対応のためのものだと言っている。少なくとも、北京政府期の童子軍関係者は、南京国民政府期に入っても非戦時においては、童子軍を軍事組織としてよりも教育的な組織として取り扱おうとしたことは明確である（学会発表）。

（3）要するに、中国の童子軍運動は成立・展開の過程において、まず1910年代には上海租界を経由し、外国人・中国人教育関係者の協力の下で、イギリス発祥のボーイスカウト運動と関わりながら成立した。その後、上海YMCA・中国の民間教育団体のサポートの下で、全国へ展開されていった。1920年代には、中国童子軍は少年団日本連盟などと国際交流を進めながら、自国の運動をさらに成長させようとした。この一連の事実を確認したことを通じ、中国の童子軍史を一國史から脱却させ、世界スカウト運動の流れの中で改めて考察することができた。また、北京政府期において、「童子軍教育」はその教育的価値が認められ、新教育の一手段として提唱された。童子軍活動を通じた健全なる青少年育成が教育関係者より期待された。そうした童子軍の教育的価値（公民教育・児童中心主義）に対する北京政府期童子軍関係者の堅持を、南京国民政府期における童子軍の訓練課程および教科書を通じて確認することができた。以上によって、中国近代教育史における童子軍の代表する児童社会教育活動の教育的意義およびその重要性を改めて確認することができた。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計3件）

孫佳茹、中華民国初期における「童子軍（ボーイスカウト）」運動の展開：上海共同租界の「華童軍」に焦点を当てて、教育学論集、査読無、第61巻、2019年、159-192

https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/major/education/group/annals/annals_2019.html

孫佳茹、南京国民政府時期における童子軍改組の特徴：1928年から1931年まで「中央訓練部」の取り組みを中心に、教育学論集、査読無、60巻、2018年、163-178
<http://ir.c.chuo-u.ac.jp/repository/search/binary/p/11049/s/10008/>

孫佳茹、中華民国時期における「童子軍」運動の展開と教育関係団体との関わりについて
1915年から1925年まで、学術研究 人文科学・社会科学編、査読無、65巻、2017年、
85-96
<https://core.ac.uk/download/pdf/144467365.pdf>

〔学会発表〕(計6件)

孫佳茹、中華民国時期におけるボーイスカウト運動の成立と展開 「童子軍教育」としての確立、全国スカウト教育会議、2018年

孫佳茹、南京国民政府期における童子軍運動の展開 1928～37年を中心に、アジア教育学会、2018年

孫佳茹、日中戦争期における国民政府による児童「組訓」工作 童子軍の「教育」から「訓練」への変遷に注目して、日本軍占領下における東アジア地域の子ども オーラル・ヒストリーの視点から(国際フォーラム) 2017年

孫佳茹、中国におけるボーイスカウトの成立 1910～1920年代を中心に、全国スカウト教育会議、2017年

SUN Jiaru、非正規教育実践与社会公共領域的關係探討 聚焦1910-1920年代中国童子軍教育活動、Comparative Education Society of Hong Kong(国際学会) 2017年、

孫佳茹、中華民国時期における「童子軍」運動の展開と教育関係団体との関わりについて
1915年から1925年まで、日本社会教育学会第63回研究大会、2016年

〔図書〕(計1件)

孫佳茹 他、立川印刷所、スカウティングを科学する：2018年ボーイスカウト全国大会 全国スカウト教育会議(テーマ集会) 教育研究プロジェクト「スカウティングを科学する:Part2」シンポジウム記録、2019年、45。

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。